

新規就農しました!

農業委員会だより

編集 農業委員会広報部会

第86号



さいとう まさき 齊藤 雅樹さん、あやか 彩香さん
(宇木)

齊藤雅樹さん、彩香さんを紹介しました。
雅樹さんはJAの職員(技術員)を6年間務めた後、実家で営む果樹栽培の手伝い等をされてきました。令和6年より実家から独立し、現在はりんご100アール、ぶどう25アールを栽培されています。「これからもっと規模拡大して、法人化も考えています。」と力強く語ってくれました。元技術員の知識を生かし、彩香さんと共に地域農業の先頭に立つて活躍されることを期待しています。

(月岡徳一 農業委員)



ふるはた よしき 古幡 芳基さん
(薬師)

古幡芳基さんを紹介しました。
就農される前は、製造業の現場で働いていました。
このたび、家業であるりんご農家を継ぎ、新たな一歩を踏み出されました。
現在は、試行錯誤を重ねながらも、自ら手がけたりんごの成長を楽しみつつ、日々農業に向き合っています。
「美味しい」と喜んでもらえるりんごをたくさん作る事が、古幡さんの夢です。
忙しい毎日の中でも、仕事の合間にはソフトボールを楽しむなど、充実した時間を過ごされています。(富澤博文 推進委員)

山ノ内町地域計画のブラッシュアップについて

「将来の山ノ内町の農業のあるべき姿」として町内5地区(沓野・東部・南部・西部・北部)で策定(令和7年3月)した地域計画のブラッシュアップに取り組みます。

・地域計画ブラッシュアップの具体的な取組

地区ごとに策定した地域計画をもとに具体的な目的・目標(長期・短期)の設定

地区としての課題の整理、具体的な5年後の目指すべき地域の農業の姿を明確にします



優先順位(長期・短期)の設定、戦略(方向性やシナリオ)の設定

具体的な目的・目標をもとにどのように進めていくか優先順位を設定します



具体的な戦略の実践

優先順位に沿って実践していきます



検証・評価

地区としての課題の整理、具体的な5年後の目指すべき地域の農業の姿を明確にします

農家、農協、農業委員会、町等で話し合いのうえ、より良い地域の農業となるよう、各地域の農業振興会議への参画をよろしくお願ひします。

西部地区営農組合の取り組みと展望

西部地区営農組合では、地域計画策定に向けたワークシヨップにおいて、「荒れた農地がなく、活気に満ちた田園風景が広がる農村であり続ける」という目標が合意形成されました。

農業者の高齢化等により、年々遊休農地が増えている現状を踏まえ、現実的な対策として、立地の良い優良農地に限定して、遊休農地を解消する取り組みを令和4年から開始しています。今年度は、約46アールの畑を選定し、25名のボランティアで草刈作業を行いました。遊休

農地があることに慣れてしまつてはいけない、遊休農地があることに違和感を覚えるマインドがあつてこそ、健全な農村であるという信念を共有するためにもこの事業は継続していく予定です。

そのほか、有害鳥獣の対策も進めているところですが、一層の強化を図り、安心して農作業に勤しめる地域となるよう、営農組合員一丸となって努力していきます。

(西部地区営農組合長 藤浦忠広)



鳥獣害防止施設設置補助金を紹介します

有害鳥獣による農林水畜産物等の被害を防止するため、個人等が設置する電気柵等の資材購入費の一部を補助します。

- 1 対象者
 - ・町税等に滞納がなく、町内の土地に電気柵等を設置する者
- 2 対象防除施設種類
 - ・電気柵
 - ・防護柵（ワイヤーメッシュ柵、金網柵、トタン柵、ネット柵）
 - ・防鳥用ネット及びテグス
- 3 補助率及び上限金額
 - ・施設の購入費の2分の1以内（上限10万円）

ご不明な点や詳細は、農林振興課耕地林務係
電話 0269-33-3112 へお問い合わせください。

第10回長野県農業委員会大会に参加して

農業委員長 佐藤 次雄

11月19日に開催された標記大会に参加し、「農地利用最適化に係わる講演」では、地域計画策定にあつて後継者の方々が話し合いの場に参加したという話がとても印象的で、後継者を確保するには、それぞれの家庭で「生きていくための物差し」を作っておくことが大切だということに、ハッとさせられました。特に子どもが一度は地元を離れても何かの折に親元の良さを思い出して帰ってくるといふ点は、心に残りました。

山ノ内町の果樹農家にも後継者のいる農家はありますが全体的に見るとその数は限られているのが現状です。私自身振り返ってみても、「農業をやっているけど暮らしていけない。どこかの会社に就職し真面目に働けばいい」という物差しを子どもに押し付けてきたことを思い出しました。

もう少し物差しの作り方に工夫が必要だったのではなかったかと反省しつつ、他にどうすれば良かったのか、なかなか思いつきません。振り目でした。

あとがき

令和8年は「午年（うまどし）」です。馬は古くから農作業や移動を助け、私たちの暮らしに欠かせない存在として親しまれてきました。
午年は「行動力や前進するエネルギーが高まる年」ともいわれています。農業を取り巻く環境は、自然災害を含め決して楽観できる状況ではありませんが、一心に走る馬のように、新しい挑戦や変化への柔軟性、周囲との調和を大切にしながら力強く前進していく、そんな一年にしていきたいです。

(渡辺輝子 農業委員)